

卒業する皆さんへ
～平成二十九年度卒業証書授与式校長式辞より～

和らいだ春の日差しを感じる今日この頃です。本日、ここに、島根県立大社高等学校第七十回卒業証書授与式を行うにあたり、多数のご来賓の方々のご臨席を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

そして、保護者の皆様、お子様のご卒業、おめでとうございます。お子様はここまで立派に成長されました。保護者の皆様の胸には、ひとしおの思いがこみ上げて来ているものとお察します。改めて敬意を表しお祝いを申し上げます。また、この三年間、本校教育にご理解と協力いただきましたことを心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ただ今、卒業証書を授与しました二百七十五名の生徒の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは、入学時より「夢 努力 感動」のもと、勉学に部活動に励んで来ました。夢や目標は人それぞれですが、努力する過程で得られたものは共通していると思います。それは、本校の教育目標にもある「たくましく生きぬく実践力」です。学習だけでなく、学園祭などの学校行事や部活動などにおける実践力は、計画し、悩み、耐え、達成する過程を経ることによって、確実に身につけているはずで、今年度は、学校全体としての結果を得ることができました。それは、県総体での五年ぶりの総合優勝です。互いに鼓舞し合う雰囲気や、応援し合う姿勢、最上級生としてのリーダーシップなどが相乗効果を生み得られた結果だと思えます。今年、創立百二十周年を迎える本校が更なる進歩を遂げるための華やかな助走路を、皆さんが、作ってくれたことに感謝します。

さて、卒業を迎えた皆さんに、ひとことメッセージを贈りたいと思います。

平昌オリンピックが二月二十五日まで開催されました。様々なドラマがありました。皆さんは何が印象に残り、何を考えましたか。二月十八日、小平奈緒選手が女子スピードスケート五百mで金メダルを獲得しました。長年のライバルである韓国のイ・サンファ選手を破っての金メダルでした。トップを切ってゴールした小平選手には、競技場を訪れた日本人をはじめとする多くの観客が、彼女に大きな歓声と拍手を送りました。

しかし、歓声に応えコースを周回する小平選手はある仕草を観客にしたのです。それは、人差し指を口に当てる仕草でした。静かにしてほしいということを発信するためだったのです。大歓声で、これから競技に臨むイ選手を邪魔する可能性があったためです。同じ条件で戦い、真の実力を競いたいという純真なアスリート魂もあったかもしれませんが、相手を尊重し配慮する仕草には、地味な仕草ではありますが、胸を打つものがありました。

「相手を尊重する態度」が大切なのは、スポーツにかぎりません。社会においては、相手を傷つけず意見が言えたり思いを伝えたりできることが必要です。人間力といわれるものの基盤であり、対話が成り立つための条件です。価値観の多様化の進む社会では、共通の足場を持たない者同士が話し合い、考えを深め合うことが大切です。その前提となるのが「相手を尊重する態度」なのです。

「相手を尊重する態度」の他にもう一つ、皆さんに意識してほしいことがあります。それは、「生産するための学び」です。私は、大学での最初の授業で、先生からショッキン

グな言葉を受けました。それは「知的崩壊をせよ」という言葉です。頑張っで勉強し喜んで入学した自分を全否定されているように感じました。

先生の言葉は、受験戦争といわれた時代に高校生活を送った私たちへの警笛だったので。当時の自分の勉強は、たくさん覚え、正解のわかった問題をたくさん解いて練習するというものでした。言わばすでにわかっていることを吸収するだけだったのです。先生が伝えたかったことは、「大学での学びは、正解がまだ見つからないことや、正解がないものについて考える学びである」ということでした。「吸収するだけの学びの態度を一旦崩壊させ、知的生産への学びに向かえ」と言いたかったのです。

大学だけでなくその他の上級学校でも同じことが求められると思います。常に課題と向き合っている実社会ではなおさらです。生産は、農作物や工業製品など目に見えるものだけでなく、新たな社会のシステムや、教育、医療、芸術なども含め人の幸せにつながるものを生み出すことです。

皆さんは、これから、与えられる学びから自分で貪欲につかみに行く学びにシフトしなければなりません。限られた教材での学びから、範囲無限の学びになります。他者や書籍、インターネットなど、様々なものから情報を引き出し、編集し、活用できる知恵や行動を生み出してください。自分を含め人々を幸せにする知恵や行動を意識し、学び続けてほしいと思います。

いなさ会館の前に、創立百周年を記念して建立された石碑があります。表には「縁」という文字が彫ってあります。裏にはこの字に込められた思いが次のように書かれています。

「私たちが、学校・教育と結ばれた『学縁』と、友だちとの『心縁』を大切に、誠心をもって楽しい学校づくりをしようとの願いが込められています。」

学縁とは学業の縁、心縁とは心の縁です。皆さんには、この「学縁」「心縁」に加え、歴史と伝統のある大社町で過ごした地域の縁、すなわち「地縁」もあります。本校では毎年、卒業式では「ふるさと」を歌います。「ふるさと」は、これらの縁を意味するものでもあります。先々、進む道に迷うこともあると思います。そのときは、青春時代のこの三つの縁を思い出し、改めてスタートを切ってほしいと思います。「ふるさと」は皆さんを暖かく見守りながら待っています。

卒業生の皆さん、時が迫ってきました。大社高校から、高く鋭く勢いよく飛び立ってください。「相手を尊重する態度」、人々の幸せにつながる「生産するための学び」を意識し、「学縁」「心縁」「地縁」を大切にこれからの人生を歩んでください。

本日、卒業される皆さんの人生が、健やかで実り多き人生でありますよう祈念して、式辞といたします。

平成三十年三月二日

島根県立大社高等学校
校長 吉田 彰 二